

LM corsa

60 **OTG** MOTORSPORTS GT300
 🇯🇵 A.Iida 🇯🇵 H.Yoshimoto
 🇩🇪 Dominik Farnbacher

OTG MOTORSPORTS × **INGING** MOTORSPORT

RESULT 18th

WEATHER 27日:晴れ/ドライ 28日:晴れ一時雨/ドライ

ENTRY 29台 出走:28台

CAR SYNTIUM LMcorsa RC F GT3

General comment

AUTOBACS SUPER GTシリーズの第6戦、「INTERNATIONAL SUZUKA 1000km」が鈴鹿サーキットで開催され、通常のレースより3倍以上長いレースで、熾烈なバトルが繰り広げられた。

LMcorsaが飯田章と吉本大樹に託した「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は、第4戦のSUGOでこそ接触があってラジエータを破損し、修復してコースに戻されたものの、規定周回にあと一歩及ばず完走扱いとはならなかった。しかし、それ以外の3戦では目標である完走を果たし、前回の富士では順位こそ17位だが、トップから1周遅れに留めたこともあり、貴重なチームポイント3を獲得することができた。これがのちに福音をもたらしてくれることを期待したい。

さて、伝統の一戦、鈴鹿1000kmである。チーム結成初年度の2014年に車両こそ異なるものの、優勝を飾っている。第3ドライバーとして昨年に続いてドミニク・ファーンバッハーを起用。母国ドイツ、ニルブルクリンクのVLNシリーズでも、レクサスRC Fをドライブしている頼もしい助っ人の活躍に期待が込められた。



土曜日の朝に行われた公式練習は、吉本から走行が開始された。まずはイン～アウトを行ってチェックを行い、その後2周走行。ピットでセットアップが進められる間に赤旗中断があったが、再開後には吉本によってロングがかけられ、その間にセッションベストとなる2分1秒411が記録された。

続いてドライブしたファーンバッハーは、習熟も兼ねてロングを担当。途中でまた赤旗中断を挟むも、12周をしっかりと走り込む。ベストタイムは2分4秒200。GT300単独の走行帯から飯田がドライブし、その後のサファリも含めて引き続きロングを担当した。飯田のベストタイムは4秒695。しっかりと周回が重ねられた一方で、終盤には燃料系のトラブルが発生しており、予選に向けて一抹の不安を残していた。



予選結果 26th (2'06"136)



9時20分からのスタートとなった公式練習とは異なり、予選はしっかり太陽が昇った14時30分からのスタートとあって、温度は著しく上昇。なんと気温は34度、路面温度は44度にまで達していた。

今回のスタート担当は、SUGO以来となる吉本。ピットを離れた後、通常であれば、ウォームアップを行って、すぐアタックにかかるとは思うのだが、そうせずにピットに戻ってくるではないか。不安は的中した。公式練習でも出ていた燃料系のトラブルが対策を試みたにもかかわらず、再発してしまったのだ。しかし、このまま終わるわけにはいかない。ぐずるマシンに鞭を入れ、激しくコースを攻め立てた吉本ではあったが、2分6秒136を記すに留まり、26番手でQ1突破ならず。

残念ながら13列目から決勝をスタートすることとなった。「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」ながら、この時点でのトラブル発生は、むしろ決勝でなくて良かったと思うべきかも。チェッカーを受けるための試練として、メイクドラマの期待がかかった。



決勝結果 18th (157 laps)



猛暑に見舞われた土曜日は異なり、日曜日は早朝からあいにくの雨模様。そのことはしかし、ウェットコンディションとの相性がいいレクサスRC F GT3には、またとない状況でもある。ついに恵みの雨がやってきた、とチーム全体が思っていた。ただ、これで早朝にいつものようにフリー走行が行われ、実際に好タイムが出されていたら、土気は著しく上がっていたことだろう。が、タイトなスケジュールの関係上、今回は行われず。

代わりに通常は8分間のウォームアップ走行が20分間に延長されて、スタート進行の開始と同時に実施。すでに雨はやんでいたが、ウェットタイヤを装着しての手応えは上々、ビッグチャンスが訪れたと思われたのも束の間……。路面は瞬間に乾いていって、タイヤ選択に各チーム、頭を抱えることになる。台風10号接近の影響もあって、天候は極めて不安定。すぐに雨がまた降り出す可能性もあったが、「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」にはドライタイヤが装着されることに。

恵みの雨とはならなかったものの、タイヤ選択は的中。すぐに路面は乾いてウェットタイヤを選んだ車両はやむなくピットに戻る中、スタートを担当



した吉本は23番手に浮上、前回のウィナーであるBMW M6に続いて周回を重ねていく。想定温度域から大きく外れていたことから、早めのピットストップを強いられていた車両もあり、25周目に18番手で吉本はファーンバッハーにバトンを託すこととなった。スティント終盤には突然の雨に短い時間ではあったが見舞われるも、まったくタイムを落とさなかったのは、ニウルを走り慣れているファーンバッハーならではの。そして55周目からは飯田がドライブ。この段階で16番手を走行していた。

73周目からは、再び吉本がドライブ。それから10周後に2コーナーでクラッシュがあったため、セーフティカーが4周に渡ってコースに入り、結果的には燃費も稼げたことから、103周まで吉本は走行した。続いてドライブしたのはファーンバッハー。このスティントもまた突然の雨が2度に渡って降り、まるでドイツからの訪問者を歓迎しているようでもあった。

そしてゴールまでの最終スティントは、飯田に託された。またしてもゴール間際には強い雨が降るも、まったく危なげない走りを見せた飯田。だが、予選で見舞われた燃料系のトラブルが再発し、実際にはペースを上げたくても上げられない状態ではあったのだ。そんな困難な状況をクリアし、157周の走破を果たしたところでチェッカーが。「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は18位でフィニッシュ、予選より8ポジションアップに成功した。

次のレースは1か月半ほどのインターバルを置き、海を渡ってタイのチャンサーキットでの開催となる。高速テクニカルサーキットでの活躍を期待したい。



Director's comment



チーム監督

小林 敬一

Keiichi
Kobayashi<http://www.koba-pla.net/>

とにかく、しっかり完走することが目標でしたので、大きなトラブルなく走り切れて良かったです。欲を言えば、朝まで降っていた雨が決勝の前にやんでしまい、ドライバーのいいところを活かしきれなかったのが残念です。きっと恵みの雨になったと思うんですよ、うちのドライバーはみんなAクラスで、本来のアベレージは高いので、降り続けていたら、もっと上の方まで行けていたでしょう。特にファーンバッハーの2スティント目なんか、他より3秒から5秒も速かったですからね! ニュルなんか表はドライだけど、山に入ったらウェットというレースでも当たり前のように走っているドライバーですから、ぶっちぎりで速かった。結果論ですが、もうちょっと雨の要素が入ったら、もっとレースらしいレースができたのかな、という感じではありました。とりあえず無事にちゃんと、壊れず走り切れたということに関しては良かったと思うし、次に向けてモチベーションを落とすことはないでしょう。その次のタイヤのコースとは相性は悪くないので、今回より上の方を狙っていけると思います!

Driver's comment 1



ドライバー

飯田 章

Akira
Iida<http://akira.jp/>

なんとか完走を果たすことができました。それはすごく良かったと思う一方で、できればスタート前まで降っていた雨が、そのまま降り続けてくれれば、もっと違った結果になったかもしれませんね。ただ、そうなったらそうなって、まわりにアクシデントが発生して僕らが巻き込まれていた可能性もないわけではないので、なんとも言えませんけど……。僕の最終スティント、実は予選で出た燃料系のトラブルがまた出てしまい、大丈夫かなと思ったんですけど幸いにして走れなくなるまでじゃなくて良かった。次のタイヤも暑いですから、厳しいレースになるでしょうが、しぶとく走り続けますよ。

Driver's comment 2



ドライバー

吉本 大樹

Hiroki
Yoshimoto<http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

レーススタートから思った以上に、中団グループではありますが、着いていくことができ、調子の悪そうなBMWの後ろにずっと張りついてレースできました。僕のスティント終盤、タイヤがみんなきつくなってきた頃には、だいぶ追いついたりして、そのあたりで走れたことは初めてだし、レース中のベストラップだけで言えば、今まで4秒ぐらい差があったのが2秒差ぐらいまで縮まって、この車の持つコーナリング性能の良さという部分では、さらにいいところを見つけられましたし、これ以上ないところまでクルマを持ってくることができました。ストレートが辛いので、まだまだ辛抱のレースが続きますけど、1000kmレースを最後まで走りきれて良かった。ただ、最後のスティントで予選と同じトラブルが出ているので、根は深いんですけど、しっかり対策してもらって、次のレースにつなげるようにしたいです。

Driver's comment 3



ドライバー

ドミニク
ファーンバッハーDominik
Farnbacher

日本でのレースは1年ぶりでしたが、チームメイトと力を合わせ、目標である完走を無事果たすことができました。正直、トップスピードは他のクルマとは比較にならず、厳しい戦いを強いられましたが、チームスタッフが一生懸命やってくれて、予選で生じていたトラブルも僕のスティントでは解消していたから、決勝は何のストレスもなく走れました。チームに貢献できて、すごく良かったです。またいつか、みんなと喜びを分かち合いたいと思います!

